



学会ホームページ <http://jasce.jp>

062号 (2021年9月24日)

目次

日本協同教育学会第17回大会のご案内
「第1回 オンライン講座『日本の協同学習』」報告
『協同と教育』への投稿募集中
各地の研究会・勉強会

日本協同教育学会第17回大会のご案内

既報の通り、第17回大会を2021年10月23日(土)～24日(日)にオンラインで開催します。今大会のテーマは『「令和の日本型学校教育」と協同教育』です。2日目午前には同テーマによるシンポジウムを開催し、ICTの普及と協同教育の可能性を探ります。ご参加をお待ちしています。

1. 大会日程

1日目:2021年10月23日(土)
2日目:2021年10月24日(日)

2. 開催方法

Zoomを用いたオンライン方式で開催します。10月8日(金)までに大会参加費を納入頂いた方にのみ、第17回大会のURLをご案内します。

大会参加費の振替口座は下記の通りです。この口座は学会の年会費を納入する口座とは異なりますのでご注意ください。詳細は学会HP内の年次大会のページをご確認ください。

<https://jasce.jp/conf.php>

◇郵便局の「口座間送金(電信振替)」もしくは「電信払込み請求書」による送金の場合

口座記号番号
00290-4-92020

加入者名
日本協同教育学会大会実行委員会

◇銀行口座からのお振込みの場合

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名称(漢字)
日本協同教育学会大会実行委員会
口座名称(カナ)

ニホンキョウドウキョウイクガクカイ
タイカイジツコウインカイ

店名(店番) ○二九店(読み:ゼロニキユウ)(029)

預金種目 当座
口座番号 0092020

3. 今後の予定

9月下旬 大会プログラム閲覧開始
(学会ホームページで公開します)

10月8日(金) 大会参加申込締切

10月15日(金) 「発表要旨集録閲覧サイト」公開・閲覧開始(大会参加費を納付済の方にURLをお届けします。)

10月16日(土) 大会発表者等接続テスト実施(発表者と司会者は原則参加)

10月22日(金) 「大会当日サイト」公開・閲覧開始(大会参加費を納付済の方にURLをお届けします。)

10月23日(土)～24日(日) 第17回大会当日

「第1回オンライン講座『日本の協同学習』」報告

2021年6月26日(土)に第1回オンライン講座「日本の協同学習」を開催しました。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)を1章ずつ学ぶものです。初回は第13章(日本協同教育学会15年の歩み)を学びました。参加者は会員37名と未会員8名の45名でした。講座後の受講者アンケートをもとに、様子を報告します(アンケートの文言には「 」をつけています)。

まず、元事務局長の久保田秀明先生(創価大学)より、学会草創期や国際大会等、印象的な出来事を振り返っていただきました。懐かしい写真もたくさん披露されました。

「何よりも安永先生のお若いころの写真に感激しました。その時代から、現在に至るまで、協同学習、協同教育の世界を追求し、歴史を作っておられることを改めて感じました。そして、協同を学ぶ仲間として、その歴史の一部に私も参加させて頂いていることを感謝しました。」

「協同教育学会の歴史を知る機会になりました。次回からの書籍を読み解くことが楽しみになってきました。」

続いて、現研修委員長の須藤文先生(久留米大学)より、学会主催ワークショップ(ベーシック、アドバンス、マスター)を中心に話がありました。これらを踏まえて最後に、グループや

JASCE



により38回目の研究会を開催致しました。新たな参加者として2名の方を歓迎しました。

第1部のテーマは、「2020 COVID-19禍における成人看護学実習の取り組みと学生の学び -病院との教育連携を通して-」。ご発表は、奈良県立病院機構看護専門学校の森本実希先生でした。

第2部のテーマは、「授業資料の評価」でした。対面やオンラ

全体で、今後の学会活動についての意見交流を行いました。

「オンラインでの講師派遣、学内FDへの講師派遣等も実現できると、大変ありがたいかと思えます。」

「アドバンスを受講する予定がコロナのことで延期となりました。今後の開催を強く希望します。よろしくお願ひします。」

「オンラインでベーシック研修を受講することができたらいいと思っています。ただ、オンラインで2日間びっしりだと、講師の先生も受講者も体力的につらそうなので、半日講習を隔週で4回などと設定していただけると嬉しいです。」

「とくにテーマを立てずに、60分程で情報交換したりする場をつくるだけというのもアリかもしれないなあと思いました。」

情報交換会にも22名の参加があり、にぎやかな会になりました。ありがとうございました。

すでにご案内しております第2回オ

ンライン講座の開催は9月18日です。第3回は2022年2月頃を予定しております。今後もニューズレターならびに学会HPでご案内いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ先：研修委員会
(kenshu@jasce.jp)

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』第17号への投稿を随時受け付けています。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇「協同学習を用いた看護教育研究会」は、2021年7月24日(土) 14:00～16:00に、25名のご参加

イン授業で工夫している、苦勞している授業資料の作成について、小グループでディスカッションしました。

以下に、森本先生のご発表の概要をご紹介します。森本先生は日頃の授業に協同学習を取り入れてこられました。その授業を受けてきた3年生のリモート臨地実習の取り組みです。日頃の学習に協同学習を置くことで、臨地実習の学習活動も高め促進する、ということが伝わる内容でした。学校と病院が協同し「未来の同僚」を育む模範事例です。

看護教育では、2020年度はCOVID-19パンデミックの影響を受け、臨地実習の受け入れフィールドを失う状況が多く発生しました。2021年度もその状況は続いていますが、学内実習に切り替わることで、教育内容(事例設定)、方法、評価、などの検討に多くの時間を要しました。

このような中、奈良県立病院機構看護専門学校は、同機構内の奈良県総合医療センターとの教育連携で、

JASCE



2020年度の早い時期から学校と病院に実習用タブレットを配置し「リモート実習」を実現してこられました。教育連携の合い言葉は「看護学生は未来の同僚」そして「臨地実習と同じ内容の実習を体験すること」でした。

教育連携病院では専属の実習指導者が配置されており、通常の臨地実習に近い実習を実現するために、実際の入院患者様と受け持ち学生をタブレットでつなぎ、受け持ち患者様との毎日のコミュニケーションをはじめ、手術前から手術後、ICUでの術後管理、リハビリなどの看護場面の実際をリモートで見学しました。学生たちは看護計画を立案して患者様への栄養指導の実際もリモートで体験しました。患者様が学生に、闘病に対する赤裸々な心情を吐露してくださる場面もあり、学生達は患者様への関わりについてグループで話し合いを重ね、患者様の気持ちに向き合い、寄り添い、その訴えに応える看護実践をすることができました。

◇本研究会の今後の企画・運営について

2014年9月に初回を開催し本年9

月から8年目に入ります。そこで、企画・運営をしてきた緒方（代表）以外に、4地区に企画・運営者を配置しました。今後、対面時は可能な限り各地区で開催し、オンラインでは4地区合同で開催していくこととしました。4地区（担当者：敬称略）は、関東地区（氏原・菊原・鈴木・長峰）、中部地区（織田・牧野）、関西地区（卜部・重年・堀川）、沖縄・九州地区（片桐・知念）となります。今年度の今後の企画・運営予定は、9月は関東地区、11月は中部地区、2022年1月は関西地区、3月は沖縄地区を予定しています。今後とも、本研究会へのご参加を楽しみにお待ちしております。

代表：緒方巧 梅花女子大学
連絡先：t-ogata@baika.ac.jp

きょう探研（きょうどう探究型授業づくり研究会）

◇第3回の研究会〔きょう探研〕を7月23日（金）15時～18時に開催しました。今回の参加者は、大学籍が3名、教育委員会の方が2名、高校の先生1名、中学校の校長先生が1名、中学校の先生が1名で計8名でした。初参加が4名、そして今回は

初の大阪府以外からの参加者も2名いました。それぞれの学校や教育委員会などの第一線で活躍されている方ばかりでした。

今回は「協同カフェ」ならぬ、協同学習「対話鍋」と銘打った研修会を行いました。カフェはゆったりそれぞれが時間を過ごすイメージがありますが、鍋はみんなでワイワイ言い合う、少しにぎやかなイメージです。いろいろな食材を入れることで、それぞれ単品では出ない味わいが出るのも魅力です。なんか鍋の方が、協同っぽいなと感じたので、あまりおしゃべりじゃありませんが、協同「対話鍋」としました。

今回この「対話鍋」の今回のメインの具材の提供をしていただいたのが、大阪産業大学の西口先生です。西口先生のお話を聞いたうえで、参加者で意見交換を行いました。その後、各自が思い思いの具材（参加者自身の日常的な関心事）を鍋に入れました（話し合いました）。具材はとても新鮮（現場のタイムリーな話）で、とても深い味わいの（考えさせられる）ものばかりでした。オンライン鍋なのにちゃんと芯（心）から温まりました。

【対話鍋の流れ】

- ①自己紹介
- ②アイスブレイク
- ③西口先生から
- ④意見交換
- ⑤参加者からの話題
- ⑥意見交換



JASCE

⑦エンディング

⑧オンライン懇親会

◇次回の実施予定は2021年秋を予定していますが、詳しい日時や内容は検討中です。もし「このような研修会があれば参加したい」、「このような内容(鍋の具材)でみんなで話したい」というご意見ご要望がありましたら、遠慮なく下記の連絡先までよろしくお願ひします。

代表: 中村哲也(常磐会学園大学)
連絡先: nani7272@yahoo.co.jp

(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇第2回の研究会を2021年8月28日(土)14時~17時30分に開催しました。講師は岡山県立林野高校教諭の瀬田幸一郎先生、演題は「ICT×協同学習」でした。

Google Classroomを活用したオンライン授業のあり方、教員の業務負担の軽減に資するICT利活用など、林野高校のICT教育を牽引してこられた瀬田先生ならではの、具体的な事例に基づいた、たいへんわかりやすい講話を頂きました。また、実際にJamboardを用いたり、文書の共有に挑戦したりするなど、体験的に演習することもできました。ICTを使ってできること、学校の教室に集まらなければできないこと、そのなかで形にとらわれない「学習者の自立・自律」と「協同の学び」をどのように実現できるかを、参加者で考え共有することのできた、とても充実した3時間30分となりました。

◇次回は12月4日を予定しています。内容が決まり次第、ご連絡します。

連絡先: 高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター)
takahata@okayama-u.ac.jp

(九州地域)

協同教育研究会(旧・授業づくり研究会)

◇第52回「協同教育研究会」を、2021年8月28日(土)の午後、14時から17時の間、Zoomで開催しました。今回は、LTDについての理論と実践を学ぶ会でした。参加者は42名でした。

(1) 挨拶・導入

挨拶の後、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を用いた仲間づくり(自己紹介)をしました。今回は、ブレイクアウトルームを参加者が自分で移動できるという新しい機能を用いてディベートを行うために、メインルームからブレイクアウトルームへの移動と、ブレイクアウトルーム間の移動を、参加者自身で操作する練習もおこないました。

(2) 解説「LTD授業モデル」担当: 安永 悟(久留米大学)

「LTD授業モデル」の解説は、次の実践「LTDを活用したディベート」の導入として企画しました。まずLTD授業モデルの概要を紹介した後、本モデルの中核を担うLTD話し合い学習法について説明しました。ここではLTD過程プラン8ステップや、LTD過程プランに依拠した論理的言語技術の指導方法についての基本的な考え方を解説しました。

(3) 実践「LTDを活用したディベート」講師: 須藤 文(久留米大学)

LTD過程プランに依拠した論理的言語技術の指導法の一つとして、LTDを活用したディベートを参加者に体験してもらう機会を提供しました。参加者を1グループ4人の10グループに分け、2グループでディベートを実施しました。時間的制約もありましたので、今回は一方のグループが肯定側を他方のグループが否定側を担当し、肯定側と否定側の交代はしませんでした。

した。

ブレイクアウトルームは全部で15ルーム準備しました。そのうち10ルームはグループごとに議論するグループのルームとし、残り5ルームは2つのグループがディベートをおこなう「会場」としました。今回のディベートは「立論→作戦タイム→反論」で構成されており、参加者自身によるルーム間移動が前提となっていました。スムーズにできました。

このように、参加者自らルームを移動することができると、ジグソーや特派員など、Zoomでのグループ活動の幅が広がると感じました。また、ディベートを通して、LTDで大切にしている関連づけの効果も味わっていただけたと思います。

17時からの情報交換会にも19名の参加があり、賑やかな会となりました。

◇次回は、9月25日(土)15時から、第5回ガーゲン研究会(第8章)を予定しています。詳しくは、「結風」HPをご覧ください。

問合せ先: ご不明な点があれば、次までお願ひします。

協同教育研究所「結風」
office@yasunaga.me

(全地域)

全国看図アプローチ研究会

◇「看図アプローチ」は「みること」を重視した協同学習のツールです。

『全国看図アプローチ研究会研究誌9号』を公刊しました。電子ジャーナルです。下記URLで読むことができます。

<https://kanzu-approach.com/journal/journal-vol.9-.pdf>

問合せ先: 事務局 山下雅佳
kanzu-mail@kanzu-approach.com